

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
日常生活活動学演習		必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	水曜日 9:00~10:40		
授業の目的・概要	作業療法の対象者がどのように自身の日常生活活動と関わり、どのように日常生活活動を行うことがQOLを高めることになるのか考えることは極めて重要である。本科目の目的は、①日常生活活動に関連する基本的な事項を理解する、②日常生活活動に関わる評価の観点・実施方法を習得する、③習得した日常生活活動評価の観点を踏まえ、対象者の状態・状況に合わせた支援・援助を立案することができる、である。遠隔授業では動画や講義によって、日常生活活動支援に対する基本的な考え方を理解し、フィードバックとメディアを利用したグループワーク・発表等で意見交換も行い臨床応用まで検討する。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、outlook メールおよび Teams 上で受け付けている。疑問や不明な点は早期の解決に努め、授業の進み方に合わせて理解を深めてほしい。				
教科書	標準作業療法学専門分野「日常生活活動・社会生活行為学」：濱口豊太 編 医学書院 脳卒中の機能評価—SIAS と FIM [基礎編]：千野直一 金原出版				
参考書	特に指定しない。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	日常生活活動の評価に係る基本的な事項について説明することができる。			OT (2)	
②	対象者の状況、状態に応じた観察上の着眼点や評価スケールの必要性について説明することができる。			OT (1)、(2)	
③	対象者の状況、状態を踏まえて日常生活活動上の利点と問題点を挙げるができる。			OT (1) ~ (3)	
④	対象者の状況、状態を踏まえて日常生活活動・余暇活動に係る妥当なプログラムを提案することができる。			OT (1)、(2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1・2	ICFと日常生活活動の関連性、ADLを支援する作業療法過程、FIMなどの評価スケールについて学習する。 フィードバック：課題提示の際に総評をメール等で配信。 意見交換の機会：メール等のやり取りによって実施。	印刷教材等での授業	教科書 P.4~28 と資料など読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	6	
3・4	日常生活活動に関わる評価スケール (BI、FAI、COPM など)、ADLの治療理論について学習する。 フィードバック：課題提示の際に総評をメール等で配信。 意見交換の機会：メール等のやり取りによって実施。	印刷教材等での授業	教科書 P.29~53 と資料を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	6	
5・6	FIMによる評定、できるADLと仕手いるADLとの差異の検討、[基本動作①]起居動作の評価、支援・練習について学習する。 フィードバック：課題提示の際に総評をメール等で配信。 意見交換の機会：メール等のやり取りによって実施。	印刷教材等での授業	教科書 P.62~68 と資料を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	6	
7・8	FIMによる評定、動画視聴によるAMPSの評定、[基本動作②]起居動作の評価、支援・練習について学習する。 フィードバック：学生個々にメールで配信。 課題提示の際に総評をメール等で配信。 意見交換の機会：メール等のやり取りによって実施。	印刷教材等での授業	教科書 P.64~82 と資料を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	6	
9・10	[基本動作③]動画視聴による移乗・起き上がりの評価、支援・練習について学習する。 フィードバック：学生個々にメールで配信。 課題提示の際に総評をメール等で配信。 意見交換の機会：メール等のやり取りによって実施。	印刷教材等での授業	教科書 P.51~53、62~82 と資料を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	6	
11・12	行動理論による行動の構造化、[基本動作④]移乗・起き上がりの評価、支援・練習について学習する。 フィードバック：学生個々にメールで配信。 課題提示の際に総評をメール等で配信。 意見交換の機会：メール等のやり取りによって実施。	印刷教材等での授業	教科書 P.51~53、62~82 を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	6	

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

13・14	[セルフケア①] 更衣の評価、支援・練習について学習する。 フィードバック：学生個々にメールで配信。 課題提示の際に総評をメール等で配信。 意見交換の機会：メール等のやり取りによって実施。	印刷教材等での授業	教科書 P.121～138 を読み概要をつかむ。講義の復習。提示された課題をやっておくこと。	6
15・16	[セルフケア②] トイレ動作の評価、支援・練習について学習する。 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書 P.158～169 を読み概要をつかむ。講義の復習。提示された課題をやっておくこと。	2
17・18	[セルフケア③] 整容の評価、支援・練習について学習する。 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書 P.104～119 を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	2
19・20	[セルフケア④] 食事の評価、支援・練習について学習する。 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書 P.83～102 を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	2
21・22	[IADL] 炊事の評価、支援・練習について学習する。グループ発表に向けて学習する。 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書 P.181～194 を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	2
23・24	[余暇活動] 余暇活動の評価、支援・練習について学習する。グループ発表に向けて学習する。 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	提示された課題をやっておくこと。発表に向けた課題をやっておくこと。	2
25・26	グループ発表。事例の ADL 支援・練習について学習する。 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	発表に向けた課題を実施しておくこと。	2
27・28	[代表的な疾患・障害における日常生活活動①] 片麻痺、脊髄損傷、関節リウマチの ADL 支援・練習について学習する。 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	教科書 P.238～257 を読み概要をつかむ。提示された課題をやっておくこと。	2
29・30	[代表的な疾患・障害における日常生活活動②] 変形性関節症、呼吸器疾患、心疾患の ADL 支援・練習について学習する。 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	提示された課題をやっておくこと。	2
試	定期試験 達成度評価、評価のポイントを参照			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	15	15	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	5	0	0	0	45
	思考・推論・創造する力	20	5	5	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	5	5	0	0	20

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法	
試験	①	✓	期末試験を行う。自宅学習課題も含め、本科目内で扱った内容が対象となる。出題は記述式と選択式とする。	試験後に講評を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
レポート	①	✓	授業内で課題を提示し、期限内に Teams に提出してもらう。	個別にコメントを与えて返却する。また、次回の授業時に総評を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	Teams 上でのグループ発表となる。評価のポイントは ①テーマに沿った内容か、 ②要点が明確なことによって他者が理解しやすかったか、 ④主張（言いたいこと）は妥当なものであったか、 ④文献等も使い、十分に検討されたものか、 ⑤課題発見を指向した質疑応答を行えたか、である。	発表後に講評を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
備 考				
<p><b>教員の実務経験：</b>本科目の担当教員は 10 年以上の臨床業務経験があり、その経験を生かし作業療法に必要な基礎知識と臨床思考について教授する。</p> <p><b>実践的授業の内容：</b>臨床事例や、最近のトピックなども素材として取り上げながら授業が展開される。</p> <p><b>遠隔授業について：</b>Teams を使った遠隔授業を行います。課題ダウンロードや動画視聴などがあり、また同時双方向型授業も行いますので、授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨します。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得ることはご理解、ご了承ください。</p>				